

# 小学部「自立活動」の授業の取り組みについて

執筆者 道端 万裕子

## 1. はじめに

今回の「自立活動」の授業研究では、広島県立福山特別支援学校が作成したアセスメントチェックリストにより実態把握を行い、児童の課題見つけ目標立てをして授業に取り組んだ。授業研究は2学期に行ない広島県立福山特別支援学校の川口教諭に指導を受けた。その後、課題の見直しをしながら3学期にも川口教諭に再び指導をうけている。授業事例は2学期の研究授業の内容を挙げ、授業の年間を通した全取り組みについて考察を行う。

## 2. 授業事例

(1) 日時・場所 平成29年10月24日(火) 第2校時10:10~10:50  
小学部1年1組 101教室

(2) 学部・学年 小学部第1学年1組

(3) 題材名 「よく見てよく聞いて自分の好きなことを選ぼう」

(4) 題材設定の理由

### ○児童観

本児は肢体不自由と知的障がいを併せ有しており、食事や排泄などの日常生活全般において支援を必要としている。てんかん発作は有しているが入学してから現在に至るまで発作は起こっていない。その他体調を崩すことも無く、全般的に良好な健康状態で安定して登校することができている。

身体の状態は、体幹をまっすぐに保つ力が弱く、それに伴い上肢や下肢などのコントロールが難しい。頭部もある程度保持はでき、声かけを聞いて元の位置に立ち直ることもできるが、続けて保持することは難しい様子である。そのため体幹の安定性や頭部の保持力を高めていくことが課題であると考えられる。

上肢のコントロールに関しては、体幹が安定した時には比較的スムーズに児童の意図通りに動かすことが可能である。また、作業時には片手で支え、もう片方の手で活動を行うと動きにまとまりができやすい。右手に比べ左手のほうが支えの手としても操作の手としてもコントロールをしやすい様子である。

現在の児童の発達段階は、チェックリストにあるようにV段階(月齢10~12ヶ月)に差し掛かっている項目が多い。言語理解面では、日常生活場面の中で繰り返しよく使う言葉(絵本、ミルク、車椅子などの名詞)はある程度理解しており、「ちょうだい」「どうぞ」や「おいで」「いくよ」などのやりとりも可能である。また、活動を繰り返し行なうと、見通しをもって取り組むことができる。しかし、状況をぱっと見てあまり話を聞かないまま活動に取り組んでいる様子もみられる。また、上述の通り体幹が不安定なため、視覚の情報がきちんと入らないまま活動している様子も見られる。そのため、よく見てよく聞いて聴覚的な情報と視覚的な情報を擦り合わせながら活動に取り組んでいくことが課題となる。また、興味のある活動はなんとか最後まで取り組もうとする力が高いが、過剰な努力をしがちであり、やみくもに身体を動かして児童の達成感が十分に得られないまま終わることも多い。そのため、姿勢や手のコントロールは教師がある程度介助しつつ、児童が活動の始まりと終わりをしっかり見て、「できた」「やった」と十分に達成感を得られるような活動に取り組む成功体験を積み重ねていく必要があると考える。選択に関しては要求を伝えるというよりも、取り組みたいものを直接触ろうとする様子が見られたが、徐々に具体物と教師の顔を見て教

師に伝えようとする様子が見られるようになってきた。

また、児童は入学当初大好きな活動（ノントンの絵本読み）以外はなかなか興味を示さなかったが、学校生活を送る中で興味を持ち取り組むことができる活動が増えてきた。また、教師をよく見て言葉をよく聞いている場面も増えてきている。2学期より日常場面において写真カードを使った順番の提示を行っており、よく見ている様子が見られる。

## ○題材観

第1次は個別の支援計画の長期目標における「色々な姿勢や身体を動かす活動に取り組む中で、力の入れ方や身体の動かし方を学ぶ。」に基づいて、ボールをつかった粗大運動の活動と机でのもたれ立ち、SRC－ウォーカーを使った移動、ブランコ遊びなどを選択しながら取り組むように設定を行った。その中で、「もう一度したい」という気持ちを教師に伝えることができるような取り組みも行ってきた。

この第2次では個別の支援計画の短期目標における「やりとりあそびやふれあいあそびを楽しみ、興味の幅を広げる」という目標に基づきながら、4つの活動に2つずつ取り組み、2つとも取り組んでからもう一度取り組みたい活動を選択することを課題としている。4つの活動も児童の実態と目標に則して設定を行った。

1つめの活動は、「くいしんぼうのゴリラ」の歌を基にした活動である。この歌は、耳馴染みもよく、児童がばなな（ぬいぐるみ）の皮むきを行う動きに合わせて教師が歌をうたうこともできる。目と手を使う活動を楽しみながら取り組むことができる活動である。2つめの活動は、絵本「くつついた」の読み聞かせを行い教師と手あわせを行う活動を設定している。この絵本は様々な動物が、口をくつついたり、鼻をくつついたり、手をくつついたり「くつついた」の繰り返しを行っている。繰り返しを楽しみながら、教師とのやりとりあそびにも取り組むことができる活動である。3つめの活動は、「あたま・かた・ひざ・ポン」の手遊び歌を設定している。この手遊び歌は、ふれあいあそびで教師とのふれあいを楽しむことができると同時に、身体や顔の部位を学ぶこともできる。4つめの活動は前もたれの座位にて行う絵本読みにて体幹の安定性や頭部の保持力を高めていく課題を設定している。

今回の題材においては、自立活動の内容における4環境の把握「4感覚を統合的に活用した周囲の状況の把握に関すること」5身体の動き「1姿勢と運動・動作の基本的技能」「5作業に必要な動作と円滑な遂行」6コミュニケーション「2言語の受容と表出」から指導内容を設定している。

## ○指導観

1学期に行った第1次では、題材観にて記述したことについて取り組んできた。その中で、大きく身体を動かすような活動はとても好きで、もう一度取り組みたいという気持ちを教師に伝えることができるようになってきた。第2次では、大きく身体をうごかすのではなく、手を使うような活動ややりとりあそび、ふれあいあそびを楽しみ、興味の幅を広げてほしいと考えている。また、選択はまずは二択で行うことができるように、2つの活動を行い選ぶことを繰り返して行く。日常場面でも指示を理解して動いているのではなく、状況把握で動いている場面も見受けられるので、聴覚情報を視覚情報と刷り合わせることができるよう、実物と同じカードを使った選択に取り組んでいる。続けることで日常場面は実物でなくても身近なものはカードをよく見て理解していると見受けられるので、カードを使用した選択を行う。

1つめの手を使う「くいしんぼうのゴリラ」の活動では、歌を入れたり、ゴリラの缶に食べ物を入れるとゴリラの声が聞こえたりするよう工夫して興味をもてるようにしたい。また、座位保持椅子に座り胸当てをつけることで姿勢のコントロールを補助しつつ、教師が手の支えを介助することで、操作する手のコントロールを児童がとりやすく達成感を得て成功体験を積むことができるようにしていきたい。達成感を得て成功体験を積み、「もっとしたい」という気持ちを高めながら興味の

幅を広げることで、繰り返し手を使った活動にも取り組むことができるので、手の操作性も高めていくことができると考えている。2つめのやりとりあそびでは、まずは絵本読みと具体物を使った実演を行うことで、児童の興味をひきたいと考えている。そして、「〇〇と〇〇が」「くっついた」のやりとりを児童なりに理解し、やりとりあそびに取り組んでいきたい。手合わせは、相手の手に向かって手を前に出す児童にとって比較的簡単な動作であるので、左右どちらの手でも取り組み、両手の操作性を高めていく。また、具体物で行うときには同じ動物を選ぶマッチングも行うことを意識しながら声かけ等配慮しながら取り組む。3つめのふれあいあそび「あたまかたひざポン」では、教師とふれあいながら一緒に取り組んでいきたい。歌にあわせて身体の部位をさわり、身体の部位の名前を指導していく。同時に手遊びは特に好きな活動であるので、発声も促していきたいと考えている。4つめの活動では、座位で前もたれの姿勢をとり好きな絵本の読み聞かせに取り組みながら体幹の安定性や頭部の保持力を高めていきたい。

(5) 題材の目標

- ・もう一度したい活動のカードを選ぶことができる。
- ・対象物をよく見ながら手を使った活動に取り組むことができる。

(6) 指導計画 [全39時間]

第1次	(13時間)	
第2次	(15時間)	本時 7 / 15
第3次	(11時間)	

(7) 本時の目標

児童	実態	目標	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手あそびや絵本読みが好きである。</li> <li>・取り組みたいものを直接接触ろうとすることが多いが、具体物を見てから教師を見るなどして伝えようとする様子が見られる。</li> <li>・体幹、頭部が安定すると対象物を視覚で捉えやすい。興味があるものはしっかり頭を上げて、よく見ようとする人が多い。</li> <li>・作業時には片手で支え、もう片方の手で活動を行うと動きにまとまりができやすい。</li> <li>・支えの手としても操作の手としても左手がコントロールしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度取り組みたい活動の写真カードを見ることができる。</li> <li>・対象物をよく見ながら手を使った活動に意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真カードを使った二択の選択、姿勢保持</li> <li>○興味関心の高い教材の提供、終わりが分かり達成感をもてるような課題設定と声かけ、姿勢保持</li> </ul>
チェックリストによる児童の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指差して要求の対象を選択する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手をさして要求の対象を選択する。</li> </ul> 要V-53	1 支援者が指差して選択する行動を子供に見せる 2 支援者が支援することで、一緒に指さして選択をさせる

(8) 準備物

- ボード 写真カード  
 ゴリラの缶 バナナのぬいぐるみ 食べ物模型  
 絵本「くっついた」 動物  
 絵本 洗濯ばさみ 箱椅子 ロール ボール

(9) 指導過程

学習活動	指導上の留意点 (□課題 ○支援・配慮 ☆評価基準)
	A
1. あいさつ 2. 今日の学習内容の流れを知る (5分)	座位保持椅子で安定した座位をとらせる。前時で行ったことを振り返りながら、学習内容を知らせる。 ○決まったカード(具体の写真カード)を示しながら順番をつたえる。安定して試みることができるように姿勢の介助を行う。 提示したカードの注視 ☆声かけを聞きながら提示したカードを注視しているか。
3. 2つの活動に取り組み、もう一度したい活動を選ぶ。	座位保持椅子で座位をとらせる。
○ゴリラくん ・バナナの皮むき 歌『くいしんぼうのゴリラ』とタイミングを合わせて皮をめくる ・ゴリラくんのご飯 ゴリラ缶に食べ物模型を入れる (7分)	児童の動きを待ちながら、歌を歌う。 ○姿勢が安定するように、手の位置や頭の位置等を整える介助を行う。 ○バナナの皮はめくりやすいように付け方を配慮する。 ○しっかりバナナの皮を握ったり、動きが大きくなりすぎたりしないように手の介助を行う。 ○食べ物模型が空っぽになるまでゴリラ缶に入れることを伝え、入れ終わったことを確認し終わりがわかるようにする。 目と手の協応動作 ☆しっかり手元を見ながら左手の操作に取り組んでいるか。
○やりとりあそび 絵本『くっついた』 具体物をつかって取り組む・教師との手遊びに取り組む (5分)	絵本読みをする際には、提示の仕方や読む時の抑揚等に注意をする。具体物を使い「○○と○○が」「くっついた」の関係がわかるように提示の仕方を配慮し、児童の期待感を高める。 ○姿勢が安定するように、手の位置や首の位置等介助を行う。 ○左右両方の手で行い、操作する手・支えの手をわけるようにする。 やりとりの理解 ☆声かけに合わせ意図して手を出しているか。 両手の操作性の向上 ☆両手とも教師の手の位置を捉えて手を出しているか。
○もう一度したい活動を選択して取り組む (5分)	○写真カードを見やすいよう提示する。 ○見たカードを手差しできるよう手の介助を行う。 もう一度取り組みたいカードを選択 ☆目的のカードをしっかりと見ているか。

学習活動	指導上の留意点 (□課題 ○支援・配慮 ☆評価基準)
	A
4. 2つの活動に取り組み、もう一度したい活動を選ぶ。	床面で行いリラックスした姿勢で行う。
○ふれあいあそび 手遊び『あたま・かた・ひざポン』 (5分)	好きな歌を歌いながらボディーイメージを高めると共に、声を出すことを促す。 ○児童が身体の部位をわかりやすいように、部位にしっかりふれる。 ○児童が発声をゆっくり待つようにする。
○絵本読み 前もたれの姿勢で絵本をめくる。(5分)	その日の児童の状態に合わせてボール・ポール・箱いすなどを使い分け、前もたれの姿勢をとる。 ○絵本はめくりやすいように洗濯ばさみをつける。
○もう一度したい活動を選択して取り組む (5分)	○写真カードを見やすいよう提示する。 ○見たカードを手差しできるよう手の介助を行う。 <b>もう一度取り組みたいカードを選択</b> ☆目的のカードをしっかりと見ているか。
5. 学習を振り返る。 6. あいさつ (1分)	学習場面で選んだ2つのカードを見せ、内容を再現する。 終わりのあいさつをする。

(10) 評価の観点

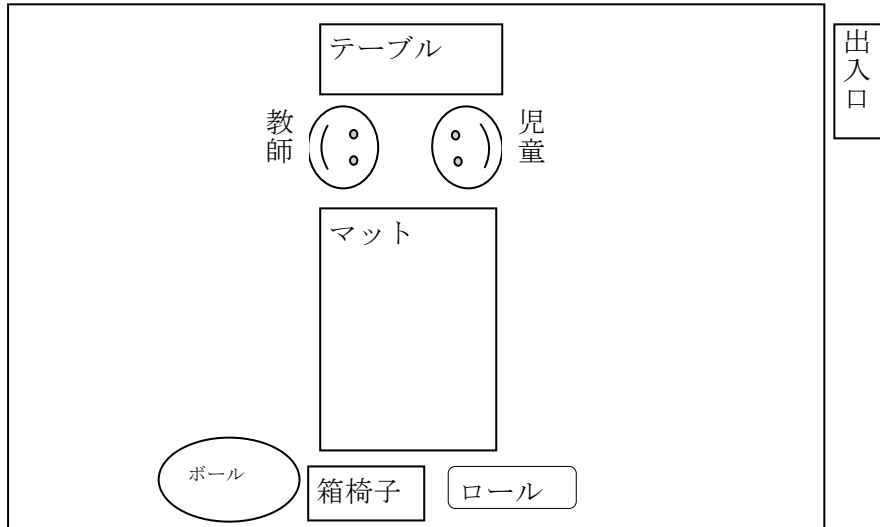
個別の目標

- ・声かけを聞きながら提示したカードを注視しているか。
- ・しっかり手元を見ながら左手の操作に取り組んでいるか。
- ・声かけに合わせて意図して手を出しているか。
- ・両手とも教師の手の位置を捉えて手を出しているか。
- ・目的のカードをしっかりと見ているか。

(11) 年間指導計画

目 標 (個別の指導計画から)	題 材 名	時間数
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもちながら、やりとりあそびを楽しむ。興味の幅を広げる。</li> <li>・体幹、頭部の安定性を高める。</li> <li>・手の操作性を高める。</li> </ul>	もう一度をつたえよう	1 3
	自分の好きなことを選ぼう ①	1 5
	自分の好きなことを選ぼう ②	1 1
合 計		3 9

(12) 教室内配置図



別紙1

児童(生徒)の実態の参考資料(福山支援学校アセスメントチェックリストによるプロフィール表)

[A]

月齢	段階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語		触覚等	視覚等	
0	I	快不快の分化	人の働きかけによる快反応	外界への気付き(聴覚)		外界への気付き(皮膚感覚・味覚・嗅覚等)	外界への気付き(視覚) 光への反応 色への反応	
2	II	反応表出の芽生え 大人への注意	人への注意 声への好反応	音への注意 音の変化への気付き		外界への興味(触覚・味覚・嗅覚等) 探索(触覚)	注視 追視	
4	III	期待反応 やりとりの予測 応答性のある行動 要求の芽生え	人への愛着 やりとりの芽生え 大人への積極性	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 音への興味 特定フレーズへの気付き・意味付け		物の単純な操作 因果関係の理解の芽生え	探索(視覚) リーチング 目と手の協応の芽生え	
7	IV	要求表出 選択の表出 指さし理解	自分への気付き 大人への自発的行動 他者意図の理解	音等への記憶の蓄積 言葉の理解の芽生え		探索的操作 因果関係の理解 操作性の高まり	物の永続性の芽生え 視覚的变化への興味 探索的操作の芽生え	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
10	V	大人の注意を引く 要求手段の多様化 指さし要求	やりとりの拡大 共感性の芽生え	言語理解 名詞等の理解	言語表出 発語の芽生え	視覚・操作等 空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	数量・概念 保存の概念 比較の概念	ADL 模倣 生活場面等の理解
13	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	言語指示 二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	言葉の模倣 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶の活用 見立て・ごっこ遊びへの興味
19	24	自己主張の芽生え 言語での要求	他の子供への興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 言語指示への応答 カテゴリー概念の芽生え	場面に合う言葉の活用 表出語彙の増加 二語文等の表出	道具の使用 空間認知の高まり	数・数概念の高まり カテゴリー概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等 ADLの基礎

自立活動目標設定シート

実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大好きな活動（ノンタンの絵本読み）以外はなかなか興味を示さない。</li> <li>・興味のある活動はなんとか最後まで取り組もうとする力が高い。</li> <li>・活動をする時に過剰な努力をしがちであり、やみくもに身体を動かして児童の達成感が十分に得られないまま終わることが多い。</li> <li>・体幹や頭部が不安定なため、活動や作業の終わる様子を見ることができず達成感が十分に得られないまま終わることが多い。</li> <li>・体幹、頭部が安定すると対象物を視覚で捉えやすい。興味があるものはしっかり頭を上げて、よく見ようとする人が多い。</li> <li>・手あそびや絵本読みが好きである。</li> <li>・したいものを直接触ろうとする人が多いが、教師に伝えようとする様子が見られることが増えてきている。</li> <li>・作業時には片手で支え、もう片方の手で活動を行うと動きにまとまりがしやすい。</li> </ul>
------	---

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもちながら、やりとりあそびを楽しむ。興味の幅を広げる。</li> <li>・体幹、頭部の安定性を高める。</li> <li>・手の操作性を高める。</li> </ul>
------	--

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
				4 感覚を統合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	1 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 5 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	2 言語の受容と表出に関する事

具体的な指導内容	<p>○手の活動</p> <p>ごりらくん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バナナの皮むき歌『くいしんぼうのゴリラ』とタイミングを合わせて皮をめくる</li> <li>・ゴリラくんのご飯 ゴリラ缶に食べ物模型を入れる</li> </ul>	<p>○やりとりあそび</p> <p>絵本『くっついた』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物をつかって取り組む</li> <li>・教師との手遊びに取り組む</li> </ul>	<p>○絵本読み</p> <p>前もたれの姿勢で絵本をめくる。</p>	<p>○2つの活動に取り組み、もう一度したい活動のカードを選ぶ。</p>
----------	---	---	-------------------------------------	--------------------------------------

### 3. 考察

本授業研究はアセスメントチェックリストを用いて児童の実態把握を行い、自立活動の授業の目標立て及び授業内容の設定を行った。年間の目標としては「見通しをもちながら、やりとりあそびを楽しむ」「興味の幅を広げる」「体幹、頭部の安定性を高める」「手の操作性を高める」をあげ、その中で『選択をする力』をつけることができるように取り組んできた。また、児童は小学部1年生であり入門期の子どもとして、40分間の授業に意欲的に取り組み、安定した姿勢で学習に臨めるよう学習の構えをつくっていくことも意識しながら年間を通し取り組んだ。

1学期は題材名を「もう一度をつたえよう」とした。児童の好きな身体を大きく揺らしたり動かしたりするあそびの中で力の入れ方や身体の動かし方を学び、オーシャンシング（ブランコ）、SRC ウォーカー、ボールなどの実物を見ながら選択を行った。そして、「もう一度したい」という気持ちを、教師を見てから目的物を視線や手差しで伝えるよう促しながら取り組んだ。初めはもう一度したいものに直接接触することが多かったが、授業を重ねる中で教師を見てから目的物を触ったり見たりして伝えることもできるようになってきた。

2学期は題材名を「よく見てよく聞いて自分の好きな活動を選ぼう①」として本授業の授業事例としてあげた授業に取り組んだ。授業を重ねる中で、手を使った活動に意欲的に取り組んだり、やりとりあそびを取り入れた活動を心待ちにしたりしている様子も見られ、40分間の授業に意欲的に取り組み少しずつ興味の幅も広がっていった。また、活動の順序の説明や選択には写真カードを使用した。カードを見て活動を予期して期待し笑うなどの様子も見られるようになった。授業研究時には、児童に緊張した表情も見られたがそれでも授業に集中して取り組もうとしていた。授業を見られた川口先生からのアドバイスは、主に①チルトを倒して動きの基底面をつくり操作性を高めていく姿勢作り、②感じるあそび、まねるあそび、賭けるあそび、きそうあそびといった子どもの学ぶ力を育む四つのあそびのうち、チェックリストV段階の児童として特に「かけるあそび」「きそうあそび」を取り入れていくこと、③成功体験を増やしセルフ評価を高めていくことと同時にV段階の児童として行動に対してきちんと評価をしていくこと④視知覚をあげていくこと⑤児童の判断を入れていくことの5つがあげられた。

3学期は上記の川口先生のアドバイスを受け、題材名を「よく見てよく聞いて自分の好きな活動を選ぼう②」として授業設定を行なった。2学期に取り組んだ選択する形式は同じとし、活動内容を簡単なマッチングを行う「おみせやさん」、賭けるあそび・きそうあそびの要素を取り入れ棒倒しを行う「よーいどん!」、絵カードで表情を扱いふれあいあそびを行う「てをたたきましょう」、どちらの手にスーパーボールが入っているかを当てる「どっちかな?」の4つに変えて取り組んだ。少し難しい内容もあったが、どの活動にも意欲的に取り組むことができた。また、よく見てその方へ手を伸ばしたり、よく聞いて選択の判断を行ったりする姿も見られた。再び川口先生には、①体幹と頭部の安定性が高まり対象を見る力がついてきたので、チルトを元に戻して学習を受けること、②マッチングをあそびの要素を取り入れながら丁寧に取り組んでいくこと、③提示の仕方を工夫し更に見る力をつけていくことというアドバイスをうけた。これにより学ぶ楽しさを育んでいくことの大切さについても考えることができた。

年間を通しチェックリストを用いて指導を行ったことで、学年団として学年の教員が児童の実態把握及び目標立てにおいて共通認識を持つことができ、自立活動の授業以外の授業場面や業間の時間においても一貫した指導に取り組むことができた。また1年のうちに何度かチェックリストを取り直すことで、より正確な児童の実態把握ができ、児童の成長や課題を明確に把握することができた。しかし今単元はアセスメントチェックリストに基づき授業を組み立てているため、認知・コミュニケーション面に特化した活動がメインとなり、身体の動きに関する活動が少なくなった。今年度は身体の動きに関して必要なことは自立活動の授業時間外に取り組んだ。今後は身体の動きに関することも取り入れながら、授業の設定を行っていくことも課題となる。来年度も川口先生からのアドバイスを参考にしながら、アセスメントチェックリストに基づき発達段階に応じた根拠ある指導を行っていきたい。